



できる楽しさいっぱい 優しさいっぱい 元気いっぱい 令和7年度3月号

# 早稲田小だより

1年42名 2年52名 3年57名  
4年69名 5年61名 6年60名  
計341名

## 六年間の答え合わせ

校長 中西 健二

2月20日(金)「6年生を送る会」。

体育館に集った子どもたちの表情は いつもと少し違っていた。そこには 感謝の気持ちと もうすぐ訪れる 別れの寂しさ そして大好きな6年生を笑顔で送り出したい という強い思いが にじんでいた。

各学年の発表は どれも胸を打つものだった。

1年生は 小さな体で一生懸命にダンスを披露した。その姿は 入学当初 何もかもが不安だった 自分たちの手を 優しく引いてくれた6年生への 精いっぱい「ありがとう」だった。

2年生 3年生 4年生 5年生も それぞれの言葉と出し物に思いを込めた。憧れ 尊敬 感謝 その一つ一つが会場に広がり 6年生のこれまでの 歩みの大きさを物語っていた。

そして6年生からは お礼として「君をのせて」の演奏。静かに始まったその旋律は やがて力強く 体育館いっぱいに響き渡った。仲間と心を合わせて奏でる姿は 六年間の積み重ねそのものだった。 うまくいかなかった日も ぶつかり合った日も 笑い合った日もあっただろう。

そのすべてを抱きしめるような音色だった。

さらに教員からサプライズの「僕らまた」の合唱。子ども達の未来が 光に満ちたものであるようお願いしながら歌う中で これまでの日々が次々と思い出された。いつの間にか頼もしくなり 学校の中心 となって下級生を導く存在へと成長していった6年生。私たち教職員にとっても かけがえのない時間になった。

そして この会は 6年生の六年間の「答え合わせ」になった。

6年生がこの学校で過ごした日々は 下級生の心に届き 下級生の憧れとなり 次の世代へと確実に受け継がれている。

別れは寂しい。しかしそれは 共に過ごした時間が本物だったからこそ生まれる感情でもある。 充実した六年間があったからこそ迎えられる 「6年生を送る会」。

それは終わりではなく 新たな一歩の始まりを確かめ合う時間だった。

### 6年生の皆さん

皆さんがこの学校に残してくれた優しさ 努力 笑顔は これからもこの学校に息づいていきます。どうか自分を信じ それぞれの未来へ力強く歩んでください。

### 保護者の皆様

これまで本校の教育活動に温かいご理解とご支援を賜りましたこと 心より感謝申し上げます。

お子様の成長の節目に立ち会えたことを 私たちは誇りに思っております。

体育館に響いたあの演奏と拍手を 私はきっと忘れません。